

シリーズ

「私の森語り」

森林・林業との関わりの中で、
様々な課題に挑戦されている方
の取組を紹介します。



「キハダを用いた信州木曽の伝統薬

『百草・百草丸』を未来へ」



日野製薬株式会社
代表取締役社長
石黒 和佳子

■自己紹介

長野県木曽郡木祖村数原の「日野製薬株式会社」に勤務しています。

弊社は信州木曽に古くから伝わる胃腸薬の百草、百草丸をはじめとする生薬製剤を製造、販売しています。

昭和二十二年に曾祖父、祖父である十代、十一代日野文平が弊社を設立し、今年創立七十五周年を迎えます。日頃よりお世話になっている多くの皆様のお陰と心より感謝申し上げます。

■活動内容

百草・百草丸の主成分は、ミカン科の落葉高木キハダの周皮を除いた樹皮である生薬「オウバク」です。これらの生薬製剤をつくり続け、未来へ継承するため、キハダは欠かせないものです。信州木曽の豊かな自然と風土の中でキハダを大切に育て、将来の薬づくりに生かし、多くの方々の健康長寿にお役立ていただきたいとの願いを込めて、キハダの植樹を行っています。



キハダから採取した生薬「オウバク」

またキハダの植樹から生育までの長年の年月を、木曽の森、土、水についての学びの期間ととらえ、情報の収集、蓄積、発信ならびに学習機会の提供に寄与することを目指しています。

今年は、やぶはら高原スキー場ゲレンデ跡地で、地域行政、団体、

企業の皆様と社員で苗木九百本を植樹しました。更に今年初めての取り組みとして、木祖村立木祖小学校の五、六年生三十六人とキハダ植樹体験学習を行いました。未来を担う子ども達が、木曽の自然の恵みや、薬草を用いる先人の知恵を知り、未来へつなぐ一助となればと願っています。当日は子ども達と苗木一〇〇本を植樹しました。

■メッセージ
キハダの成長には約二十五年の歳月を要します。弊社が創立一〇〇周年を迎える時、今回のキハダで百草、百草丸をつくり、お客様へご提供し、体験学習に参加した子ども達に贈ることが私どもの夢です。

国内産のオウバクは年々希少になっていきます。樹皮のみならず、木部も含むキハダ全体を利活用する方法を模索することが、将来の安定的な原料確保につながると考えています。

自然の恵みを用いて健康を維持することとは、先人から伝わる大切な暮らしの知恵であり、持続可能な社会の実現に寄与するものであると考えています。弊社では百草・百草丸づくりを通してこれに貢献すべく、社員一同より一層社業に精励し、研鑽を積んで参りたいと存じます。

○連絡先

長野県木曽郡木祖村数原1598番地

02643613311

製品のご注文 0120-36-3310

<https://hino-seiyaku.com>



百草・百草丸